

OA 用椅子の「座り心地」に及ぼす座面の横 R の影響

松岡敏生^{*}，西松豊典^{**}，石濱智考^{**}，
鳥羽栄治^{**}，西村弘之^{***}，石井富久^{****}

Influence of Transverse Radius of Cushion
for Sitting Comfort of OA Chair

by Toshio MATSUOKA, Toyonori NISHIMATSU, Tomotaka ISHIHAMA,
Eiji TOBA, Hiroyuki NISHIMURA and Tomihisa ISHII

感性工学研究論文集，Vol.2, No.1, p.87-94 (2002)

座面の横 R のみが異なる椅子に，被験者が 30 分間着座したときの「座り心地」官能評価量及び体圧分布量を測定し，座面の横 R 及び着座時間が「座り心地」に及ぼす影響を検討した．その結果，

着座直後の「座り心地」は「座面のフィット感」と「ゆったり感」で，着座 30 分後は「快適感」と「臀部と腰部の圧迫感」でそれぞれ表されることがわかった．体圧分布量と官能評価の相関関係から，着座 30 分後では腰椎部の接触面積が大きくなり，座面各部の接触圧力が小さくなると作業性，フィット性，安定感などが増すことがわかった．

* 生活技術開発グループ
** 信州大学繊維学部
*** タカノ(株)
**** 神戸山手女子短期大学

